

東食技研 トピックス 2020.5

便潜血検査のすすめ～大腸がんの早期発見のために～

便潜血検査とは、便の中に目では確認することが出来ない、大腸からの出血による微量な血液が含まれているかを調べる検査です。便の表面をスティックでこすり取り、そのスティックを容器に入れて提出する簡易な大腸がんの検査法です。

大腸がんは、大腸（結腸・直腸・肛門）に発生するがんであり、便が長い時間留まるS状結腸と直腸に出来やすいといわれています。喫煙や、過度の飲酒、食生活の欧米化による肥満、運動不足などが大腸がんの原因とされており、40歳代から増え始め、年齢が上がるにつれて発症のリスクが高くなります。

また、がんの部位別の死亡数を見ると、大腸がんは女性で1位、男性では3位となっており、年間およそ5万人の方が命を落としています。他のがんと同様、早期発見と早期治療が重要です。進行が進むと、血便や下血、便秘と下痢を交互に繰り返す、便が細くなる、残便感があるなど様々な症状が現れますが、初期の段階では自覚症状がほとんど無いため、大腸がんの早期発見には、便潜血検査が有効です。特に、発症のリスクが高まる40歳代以降の方は、年に1度は便潜血検査を受けていただくことをおすすめします。大腸がん検診で陽性となった場合は、速やかに専門医による精密検査を受診してください。

東食国保では30歳以上の被保険者は、無料で郵送による検査（年度内1回）を受けることができます。東食国保の被保険者でご希望の方は、本部保健事業部へ申し込んでください。

また、当研究所では、便潜血検査を随時受け付けております。お気軽に臨床検査部（☎03-3934-5823）までご相談ください。

東京食品技術研究所 臨床検査部 逸見しおり